

BOOK NEWS

大洲高校図書館

No. 7 2025 年 12 月



冬季休業中の図書館の開館時間

12月22日(月)～12月26日(金) 8:30～17:00
上記以外の期間と、土日は閉館です。

図書館からのお知らせ

現在返却期間を過ぎている図書は、なるべく早く返却の手続きをお願いします。冬季休業中に借りたものは3学期始業式を返却期限とします。この冬休みを使って是非新しい本に出会ってください。

2年2組奥本真里亚さん 第71回青少年読書感想文全国コンクール高校の部愛媛県審査 優秀賞!

先月奥本さんにインタビューしました。奥本さん、丁寧に答えてくれてありがとうございました。

Q: 対象作品の著者と著名を教えてください。

奥本: 浅井リョウさんの「死にがいを求めて生きているの」です。

Q: この本を選んだ理由は?

奥本: 「生きがい」ではなく「死にがい」を求めるというタイトルに惹かれたからです。

Q: 本の内容は?

奥本: 植物状態で眠っている智也と智也を献身的に見舞う雄介の関係性を、二人を取り巻く5人の視点から描いた物語です。

Q: 本の内容は?

奥本: 主人公である雄介の視点からは何も語られないのが面白いところだと思います。主人公の考えや思いを完璧に理解することができないからこそ、自分自身も物語を構成する一員になったかのような感覚を味わうことができます。また、登場人物たちが抱える葛藤を通して、自分の価値観について考えるきっかけにもなりました。自分を見つめ直したい人、今悩みがある人、生きがいなんて考えたこともない人など、どの立場の人にも「刺さる」一冊ではないでしょうか。

新刊図書より この冬お薦めの本

この味もまたいつか恋しくなる

主婦と生活社

燃え殻

多くの作品が映像化、舞台化されている、今注目の人気作家・燃え殻氏初めての長編エッセイ集。本作はある料理やお酒を口にするとき、ふと思い出してしまふ「あの日、あの人」を描いたエッセイ。さまざまなメニューにまつわる味の記憶と、その食べ物から思い出される人とのちょっぴり切ない、まるで物語のような話を展開する。恋しくなる味とは必ずしも「美食」とは限らない。過去のある日、あの人と食べたもの、飲み交わしたお酒が、その後も時折思い出してしまう恋しい味へと変わっていく。



星の教室

角川春樹事務所

高田 郁

「みおつくし料理帖」で一躍脚光を浴びた高田郁の現代小説。舞台は2001年から2002年の大阪にある架空の夜間中学。そうか、夜間中学だから「星の教室」なのね。夜でないと星が見えないし。夜間中学の現実とそこに通う生徒たちの生きざまが語られる、高田ファン待望の新作。



世界の一流は休日に何をしているのか クロスメディア・パブリッシング 越川 慎司

日本のビジネスパーソンは、休日を「休息」の時間と考えて、身体を休めたり、ストレスを発散したりすることを心がけていますが、必ずしも思い通りにはなっていません。一方、筆者が在籍したマイクロソフトのエリートたちは、スポーツや趣味を楽しみ、休日を満喫することで、自己再生とエネルギー・チャージという二つの目的を実現していたのです。世界の一流ビジネスマンの休日の過ごし方を知り、すぐに実践できる「休み方改革」のための具体的なアクションを紹介しています。

